

手順書:呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連

5. 人工呼吸器からの離脱(2)自発呼吸トライアル(SBT)(7-2)

【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(呼吸状態、一回換気量、努力呼吸の有無、意識レベル等)、検査結果(動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO_2)等)及び血行動態等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、人工呼吸器からの離脱(ウェーニング)を行う

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

- 1.全身麻酔後の術後覚醒が確認できた患者
- 2.抜管に向け、鎮静薬の投与を中止している患者
- 3.原疾患の状態が安定し、医師が人工呼吸器からの離脱を指示した患者
- 4.SAT が成功した患者



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

①～⑤をすべてクリアした場合「SBT 実施可能」

①酸素化が十分である

□ $\text{FiO}_2 \leq 0.5$ かつ $\text{PEEP} \leq 8$ のもとで $\text{SpO}_2 > 90\%$

②血行動態が安定している

□ 急性の心筋虚血、重篤な不整脈がない

□ 心拍数 $\leq 140\text{bpm}$

□ 昇圧薬の使用について少量は許容する

□ (ドパミン $\leq 5\text{ }\mu\text{g/kg/min}$ 、ドブタミン $\leq 5\text{ }\mu\text{g/kg/min}$ 、ノルアドレナリン $\leq 0.05\text{ }\mu\text{g/kg/min}$)

病状の範囲外
不安定/緊急性あり

③十分な吸気努力がある

□ 1回換気量 $> 5\text{ml/kg}$

□ 分時間換気量 $< 15\text{L}/\text{分}$

□ RSBI (Rapid shallow breathing index : 1分間の呼吸回数/1回換気量 L) $< 105/\text{min/L}$

□ 呼吸性アシドーシスがない

④異常呼吸パターンを認めない

□ 呼吸補助筋の過剰な使用がない

□ シーソー呼吸(奇異性呼吸)がない

主治医へ直接連絡し、
指示を受ける

⑤全身状態が安定している

□ 発熱がない

□ 重篤な電解質異常がない

□ 重篤な貧血を認めない

□ 重篤な体液過剰を認めない

病状の範囲内
安定/緊急性なし

